

4 6つの児童養護施設と一般家庭の児童に 6つのプログラムを実施

2024年度は、①絵と工作レッスン、児童養護施設専用の②えとこうさくレッスン、児童養護施設専用の③おとなと子どものじかんワークショップ、④こどキャラレッスン、4つのプログラムを実施しました。①絵と工作レッスンでは、Tシャツ作り・夏のおでかけバッグ作り・夏の水族館ゲーム・夏の工作・ハロウィンクッキー作り・不思議ピンバッジ作り・冬の工作・発表会おとなと子どものじかんをしました。②えとこうさくレッスンでは、色画用紙・クレヨン・ポスカを使って遊んだり、工作をしたり、クッキー作り・お菓子のバスケット作り・チョコの花束作りをしました。③おとなと子どものじかんでは、児童養護施設の職員さんと子どもがペアでワークショップをしました。ワークショップでは、絵を描きながら、職員さんは子どもの気持ちを訊き、子どもは自分の気持ちを話しました。④こどキャラレッスンでは、子どもがオリジナルのキャラクターを作り、それをフィモ粘土・アクリル毛糸・レジンなどの画材で商品にし、販売会「こどキャラショップ」で自ら販売しました。他にもお気に入りの絵本を聴衆にお薦めする発表会「言葉で描く絵本の世界」やキャラ弁作りやクッキー作りもしました。

述べ112回のレッスンで
797人の子どもを笑顔に

社会的養護児童58人・一般家庭児童18人

満足度 **95%**

新型プログラム
おとなと子どものじかん
ワークショップ始動！

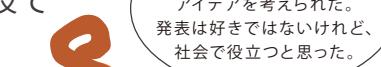
京都教室も母子生活支援施設で
5回のレッスンを実施

デザイン国語の
学会発表・講演が大好評

伊藤嘉余子理事(大阪公立大学学長補佐)、井上翔一理事、藤井健志先生の3氏による「福祉×国語×デザイン=デザイン国語」。今年で7年目になる学会発表を日本子ども虐待防止学会香川大会で実施しました。「デザイン国語」とは、国語の機能を使って、社会的養護児童のセルフアドボカシーを支援するという、他に類を見ない福祉的、教養育的メソッドです。例年通り、会場は多くの聴衆にご臨席頂き、熱心に発表に耳を傾けてくださいました。

このほか伊藤嘉余子理事が兵庫県新任養護教諭研修、四恩学園職員研修、長野県子ども白書発行記念講演会、子どもアドボカシーセンター福岡での子どもアドボケイト継続研修、阿武山学園での職員研修を実施しました。研修では子どもの声を「きく」ことについて考え、「デザイン国語」の普及と子どもの意見表明の支援活動をしました。

さらに和田隆博代表理事は神戸市須磨区中学校教諭研修や東京武蔵大学で講演をし、子どもデザイン教室の活動の普及と啓発に努めました。



2024 Report 子どもデザイン基金事業のご報告

111名様の個別ご寄付、22名様の継続ご寄付
10社様の法人ご寄付

1,955,568円のご支援

さらに子供服・画材・お菓子など138,000円相当のご寄贈品

大阪東ロータリークラブ様と 協同で社会的養護児童の支援活動

①インドの子どもたちを笑顔にするピンバッジ

6月、大阪東ロータリークラブさんからご依頼で、インドの子どもたちに笑顔のピンバッジを贈る「インドにスマイルプロジェクト」をしました。作ったピンバッジは全部で130個、全量を大阪東ロータリークラブ様にお買い上げ頂き、売上金52,000円は全て子どもたちの生活資金にしました。

②大阪中之島美術館アートラーニングプログラムに 児童養護施設の子どもたちを招待

9月、大阪中之島美術館のアートラーニングプログラムに児童養護施設の子どもたちと参加しました。パリ・東京・大阪の3つの近代美術館の作品の中から、共通点のある作品を3点ずつ並べて展示する「TORIO展」を見て、自分なりの視点で意見を話すユニークなプログラムでした。語り合うことで見えないものが見えてきます。100年ほど前の美術作品を見るという貴重な機会を頂きました。

③キッズプラザ大阪でクリスマス会に 児童養護施設の子どもたちを招待

12月、児童養護施設の子どもたち、大阪東ロータリークラブ様・施設職員さん・スタッフの総勢71人がキッズプラザ大阪でクリスマス会を楽しみました。キッズプラザ大阪で遊び、マクドナルドを頬張り、音楽会、サンタさんの手品とお菓子、名前bingoとプレゼント交換、さらに子どもデザイン教室の理事からもお菓子のプレゼントがあり、大盛り上がりでした。

福祉型キャラクタービジネス こどキャラ

子どもデザイン教室の子どもたちが描いたキャラクターを法人様や個人様に販売し、その収益金を子どもデザイン教室の運営資金と子どもたちの生活資金にするユニークな福祉型キャラクタービジネス「こどキャラ」。今年度は林ケミック様を始め、204,690円の収益金がありました。2024年度は財政難のため、画材費に充当しました。



林ケミック様のイラスト

個人様のお名刺



里親支援機関 結い様のJR車内広告

5人 新たに1人が加わり の子どもを育てました。

2024年度の振り返り

- ①子どもの人権と里親の教育権の相反に悩む
- ②年4回の旅行で子どもたちとの絆を深める
- ③「自分の意見を言える子ども」を育てる
- ④急に「お家に帰る」と言いだした子ども

2024年度は、子どもの人権を考えるあまり、おとなが子育ての責任を放棄しているのでは?と懸念する場面が多くありました。一方で、岡山・香川、和歌山・福井・金沢、北海道と旅行し、旅を通して子どもたちとの絆を深めました。しかし、そんな風に呑気にしていたら、ある子が突然、「お家に帰る」と言い出しました。しっかりとした意見表明です。ただ、所詮里親は、その子の人生の途中から途中までを養育する存在なのだとふと我に返り、あまりのめり込むことの危険性を感じた1年でもありました。

5人 新たに1人の常勤スタッフが加わり のおとで育てました。

ファミリーホーム「こどもサポートホーム」に新しい正職員が加わりました。その人は、私にとって運命の子というべき、元子どもデザイン教室のレッスン生です。しかも私の元里子です。なぜ、大げさに運命の子という理由は、この子がいなければ、私は里親になっていなかったからです。この子が小学校4年生の頃か、ふとレッスン中に呟いた「なんもええことあらへん、生まれてこんかつたらよかったです」の言葉から、私の里親人生が始まったからです。

この夜、この子も一緒に夕ご飯を食べました。いつもよりずっと暖かい食卓になりました。他の子たち全員が、お風呂上がりに「髪の毛乾かして~」と風呂場でわいわいしました。私は、子どもたちが一番欲しているのは、こうしたヒューマンタッチだと確信していたので、その望みがようやく叶いました。私のホームの最大の欠点は、父子家庭であることです。私は男親ですから、こうした子どもが一番欲しているものを埋めることができませんでした。その欠けたビースを、この子が埋めてくれました。しかも、私にとっては身内そのものです。この子にとっても自分が暮らしたホームですから安心です。2010年頃の活動報告書を読み返すと、「私の夢は子どもデザイン教室を巣立った子どもが、やがて教室で働いてくれること」と書いてあります。私は64年の人生で願った夢は大方実現してきました。そして今日、25年間夢みた夢が実現しました。夢は諦めなければほぼ叶います。感謝しかありません。

5人目のスタッフが増えたことで

こどもサポートホーム最大の欠点

「父子家庭」を補えるように



4月、岡山・香川旅行



8月、和歌山白浜・串本・熊野旅行



10月、福井・金沢旅行



12月、北海道旅行

2024 Report

子どもデザイン
教室事業の
ご報告

満足度

100%
の3大イベント

伝えたいことが
伝えられた。

子どもの話を
聞いてるつもりで
聞いていないと
反省した。

いろんな人に
買つてもらえて
うれしい。

こどキャラレッスン発表会 11月4日祝

言葉で描く絵本の世界

絵と工作レッスン発表会 2025年3月1日㊁・8日㊁・15日㊁

おとなどこどものじかん

こどキャラレッスン販売会 2025年3月20日祝

こどキャラショップ



3月、販売会「こどキャラショップ」